

2019 年度特集号「実時間データを用いた言語変化研究」への 投稿論文募集のお知らせ

計量国語学会では、2016 年度より特集号の刊行を始めました。2018 年度特集号「多変量解析を用いた言語研究」に続き、2019 年度特集号への投稿を下記の通り募集いたします。

特集号タイトル 実時間データを用いた言語変化研究

趣旨

言語変化のデータを計量的に解析する際は、独立変数（グラフの横軸）として「時間の経過」を、従属変数（グラフの縦軸）は「新しい表現の普及率」等を想定することが一般的である。時間の経過については「見かけ上の時間」や「実時間」などがあるが、今回の特集は実時間調査で収集したデータ（以下、実時間データという）に目を向ける。

実時間データはいわゆる社会調査タイプの経年調査によるだけでなく、「日本語歴史コーパス」や国会会議録の他、文献資料を用いた通時的調査においても収集することができる。また例えば文化庁の「国語に関する世論調査」データには、国立国語研究所が実施している各地での「定点経年調査」と同様に、ほぼ同一の質問を経年的に繰り返し実施している項目があり、実時間データとしての利用が期待される。

言語変化の実時間データにもとづく計量的研究はまだ数が多いとはいえない。このような状況の改善を目指して、今回の特集は「実時間データを用いた言語変化研究」をテーマとする。この特集では、次のような論文を一般投稿として募集する。

- (1) 文化庁の「国語に関する世論調査」や国立国語研究所の「岡崎敬語調査データベース」「鶴岡調査データベース ver.2.0」などを活用した言語変化の実時間研究
- (2) 言語の経年調査に関するデータベース構築やその資料性をめぐる研究
- (3) 言語変化の消長をめぐる研究
- (4) 言語変化の時系列分析に関する数理的研究

スケジュール

2017 年 12 月 20 日 投稿受付開始

2018 年 12 月 31 日 投稿受付終了 (2019 年 3 月 31 日ではありません。ご注意ください)

2019 年 9 月下旬 32 巻 2 号に掲載

(査読で改稿に時間を要した場合、次号以降の掲載になることがあります)

特集号原稿投稿宛先

submission@math-ling.org

通常の投稿先と同じです。投稿時に特集号への応募であることを明記してください。特集号への投稿についても一般の投稿と同じように査読を行います。今回の投稿カテゴリーは、「論文A」「論文B」「研究ノート」「研究資料」「書評・文献紹介」のいずれかとなります。

投稿と同時に当学会に入会することができます。その場合は、学会事務局にもメールでご一報ください。事務局のアドレスは、office@math-ling.org です。